

『保育学研究』投稿規程

1. Aims and Scope
2. 投稿資格及び投稿期間
3. 論文種別
4. 出版および倫理方針
5. 査読プロセス
6. 著作権，オープンアクセスと料金
7. 原稿の投稿 [オンラインシステム]
8. 原稿，電子投稿システム入力内容および提出書類の準備
9. 採択された原稿
10. 問い合わせ先

1. Aims and Scope

(1) Aims and Scope

『保育学研究』は，一般社団法人日本保育学会（以下，本学会）が発行する和文のオープンアクセス誌で，年 3 回発行されている。J-STAGE 等オンラインでの公開後は誰もが閲覧できる。

『保育学研究』は，保育の質を高め，家庭や教育，療育実践の場との連携の下に，乳幼児の生活と育ちを支える保育・教育実践の向上を図ることを刊行の主たる目的とする。子どもの健やかな発達と幸福，保育界の進歩に資する，学術的・実践的に意義のある，独創性，新奇性に富んだ論文を掲載している。

『保育学研究』の目的に沿う，乳幼児の発達，保育実践等に関する論文の投稿を主に募集する。

本誌で掲載する論文は，特集論文，自由論文の 2 種類である。

本誌では，全ての種別の論文についてダブル・ブラインド方式の査読を行っている。

『保育学研究』が想定する読者は，保育学の研究を行う研究者，学生，実践者，その他の関心のある人々である。

[↑先頭へ戻る](#)

2. 投稿資格及び投稿期間

(1) 投稿者資格

- ・ 投稿は、筆頭執筆者、共同執筆者に関わらず会員であること。
- ・ 執筆者は、5月投稿に関しては、当該年度の年会費を、当該年5月20日までに納入していること。
当該年度に新規入会の方は、当該年4月20日までに入会の申し込みをしていること、かつ5月20日までに必要な入金手続きをすべて完了していること。
- ・ 11月投稿に関しては、当該年度の年会費を当該年11月20日までに納入していること。
当該年度に新規入会の方は、当該年10月20日までに入会の申し込みをしていること、かつ11月20日までに必要な入金手続きをすべて完了していること。

(2) 投稿数

- ・ 各投稿期間（5月・11月）において、投稿可能な論文数は、特集論文と自由論文を問わず、また筆頭執筆者・共同執筆者を問わず、1人1編とする。

(3) 投稿期間

特集論文・自由論文ともに以下の期間とする。

5月投稿は、当該年5月1日から5月20日23:59（日本時間）【システム表示時間5月20日10:59（アメリカ東海岸時間）】まで。

11月投稿は、当該年11月1日から11月20日23:59（日本時間）【システム表示時間11月20日9:59（アメリカ東海岸時間）】まで。

[↑先頭へ戻る](#)

3. 論文種別

本誌は以下に挙げる種別の論文（2種類）を掲載し，全て査読の対象とする。

（1）特集論文（原著論文）

内容は，指定されたテーマおよび趣旨に沿ったものであること。

テーマおよび趣旨は，会報（5月号）または，本学会ホームページを確認し，執筆すること。

（2）自由論文（原著論文）

内容は，保育の質を高め，家庭や教育，療育実践の場との連携の下に，乳幼児の生活と育ちを支える保育・教育実践の向上を図ることに関係するものであること。

[↑先頭へ戻る](#)

4. 出版および倫理方針

『保育学研究』は学術出版における最高水準を維持している。

本誌に原稿を投稿する前に、執筆者は『保育学研究倫理ガイドブック 2023』を読み、遵守していることを確認しなければならない。編集常任委員会がこれらの方針に準拠していないと判断した原稿に対し、本誌は査読なしで却下、または撤回する権利を保持する。

本誌の執筆者、編集常任委員、査読者、出版者が被る研究倫理および出版倫理に関する責任を以下に示す。

本誌へ投稿される原稿は、いかなる言語においても原稿の一部または全部が未発表・未発行の内容であり、本誌以外の媒体において出版が検討されていないものに限る。

当該原稿が本誌以外の媒体において出版検討中、出版中、または発表された場合、執筆者は編集常任委員会にその旨を伝えなければならない。

『保育学研究』において、当該原稿の掲載可否が最終的に決定される前に他の媒体へ投稿することを選択した場合、執筆者はまず『保育学研究』から原稿を取り下げなければならない。

(1) 投稿

『保育学研究』は、世界中の執筆者からの和文原稿の投稿を歓迎する。

本誌へ投稿される原稿は、全ての執筆者が、その内容を事実に基づいたものであると保証し、投稿に同意し、発表する権利を有するものであると見なす。

(2) オリジナリティ

本誌へ投稿される原稿はオリジナルのものに限る。本誌では、剽窃チェックツールを使用して、原稿の内容がオリジナルであるかどうかをスクリーニングする場合がある。本誌に原稿を投稿することにより、執筆者はこのスクリーニングが行われることに同意したものであるとする。原稿が不適切なレベルでオリジナルでない内容を含んでいる場合、編集常任委員会判断で却下または撤回されることがある。

(3) プレプリント

本誌へ投稿される原稿は、いかなる言語においても原稿の一部または全部が未発表・未発行の内容であり、本誌以外の媒体において出版が検討されていないものに限る。本誌では、プレプリントサーバに掲載されたことのある原稿は受け付けられない。

(4) オーサーシップ

本誌へ投稿された原稿は、全ての執筆者が執筆者リストについて承認したものと見なす。原稿投稿後の執筆者リストの変更（執筆者名の追加や削除、執筆者順の再配置など）は、認めない。

(5) 画像の処理について

執筆者は画像をデジタル加工・処理することができる。顔・名前等は、モザイク等の加工をし、個人情報保護されるよう配慮をすること。ただし、結果に係る画像の加工は、調整が最小限に抑えられていることが必要である。編集常任委員会は執筆者に対し未加工のオリジナル画像の提出を要求する権

利を有する。要求された画像が提出されなかった場合、原稿は却下または撤回されることがある。

（６）著作権のある資料の転載

オリジナル以外の写真、図表類、URL 等については、各自で著作権者から（出版物に関しては、出版者からも）転載、引用の許可を得る必要がある。編集常任委員会より、転載許可書の提出依頼があった場合は、提出すること。

（７）根拠データおよび資料

公的資金を得て執筆された論文の場合、執筆者は、所属のリポジトリ等で根拠データおよび資料を公開する必要がある。根拠データおよび資料の公開については、執筆者が責任を負うものとする。

（８）承諾書・同意書

研究協力者（対象者）の許可を要する際は、資料等による承諾を得る必要がある。承諾を得た際のフォーマットや、アンケート調査の書類、所属先の倫理審査委員会の書類等を投稿時提出すること。

サイン入りの承諾書は執筆者が、10 年保管し、編集常任委員会より提出依頼があった場合は、提出すること。

なお、査読の関係から、投稿時には、本文中に、大学や組織等の倫理審査委員会の承認を受けたことを本文に記載する際、審査を受けた大学名や組織等は記載せず、「所属大学、所属組織の倫理審査委員会の承認を受けた」等と記載すること。

（９）執筆者の利害関係と利益相反

透明性の観点から、本誌では全ての執筆者に、投稿した原稿に関連する競合または利益相反がある場合、その旨を宣言することを求めている。利益相反は、執筆者の公平な研究の実施および報告に影響を及ぼす可能性のある状況が顕在する、認識されている、潜在する場合に生じる。利害の衝突の可能性としては、商業的または財務的な利害の競合、商業的な所属、コンサルティングの役割、株式の所有等が例として挙げられる。

執筆者は、外部資金を得て論文を執筆した場合、資金の出所を付記に記載する必要がある。

（10）セルフアーカイビング（グリーン OA）方針

執筆者は、セルフアーカイビング（グリーンオープンアクセス）として、本誌に掲載される自身の論文の出版社版および根拠データを、機関リポジトリなどの公的なオンラインリポジトリに登録できる。本誌は、出版と同時に機関リポジトリから公開することを許容する。

（11）長期的なデジタルアーカイビング

『保育学研究』は、採択後、J-STAGE で公開される。

その際、デジタルコンテンツは、ダークアーカイブサービスである Portico に保存される

(<https://www.portico.org/publishers/jstage/>を参照)。自然災害等により J-STAGE で一定期間以上コンテンツを提供できない事態が発生した場合、本誌のコンテンツは Portico にて公開される。

[↑ 先頭へ戻る](#)

5. 査読プロセス

(1) 編集および査読プロセス

本誌は、ダブル・ブラインド方式の査読を採用している。

①投稿に係る事項等の確認

本誌に投稿された原稿は、編集常任委員会によって査読が行われる。投稿規程にっていないと判断されたものは、査読を経ずに審査対象外（不受理）とされる。

②査読

1) 編集常任委員会が指名する査読者によって行われる。査読者は、本学会の会員であり、専門知識、査読者としての経験などを考慮して選出・依頼される。査読者が論文の評価コメントを提出し、編集常任委員・専門委員が原稿の採否（採択・修正採択・修正再審査・不採択）を決定する。

2) 修正採択・修正再審査となり、原稿の修正を求められた場合、執筆者は指定の日数以内に修正後の原稿を再提出する。この期限を過ぎて提出された修正原稿は、審査対象外となる。

3) 修正後の原稿は、評価コメントの内容が反映され修正されているか、編集常任委員・専門委員の査読者で確認し、採否決定（採択・修正採択・不採択）が行われる。

4) 選考結果の通知

最終的な結果は、特集論文・自由論文ともに、6か月以内にメールで通知する。

(2) 査読評価コメント

査読者の評価コメントは、1つにまとめ、投稿者へ送信する。

(3) 採択基準

原稿が本誌の掲載要件を満たし、出版された際に本誌へ大きく貢献すると思われる場合、編集常任委員はジャーナルへの掲載を推薦する。

『保育学研究』に掲載される論文は、学術的・実践的に意義のある、独創性、新奇性に富んだ論文である。

(4) 編集常任委員会の独立

本学会は、ジャーナルにおける全ての編集上の決定について編集常任委員会に完全かつ唯一の責任を認めている。本学会は、根本的な編集行程の破綻がある場合を除き、編集上の決定には関与しない。

編集上の決定は、本誌の他の利益とは完全に切り離されている。

(5) 異議申し立て

編集上の判断に誤りがあると思われる場合、執筆者は編集常任委員会に異議を申し立てることができ

る。異議申し立ては、執筆者が査読者や編集常任委員の誤解や誤りの詳細な証拠を提示した場合にのみ検討される。異議申し立ては編集常任委員会が検討し、最終決定を行う。

（６）査読における守秘義務

査読者は、その責任の一環として未発表原稿の機密性を常に保持することに同意する。また、査読者は原稿の査読依頼を受けることにより、以下を遵守することに同意したものと見なす。

- ・ 投稿者からの合理的な要求がない限り、査読者の身元を開示しない。
- ・ 原稿の査読における自身の役割を明らかにしない。また、執筆者に身元を明かさない。
- ・ 原稿やその内容について、原稿や査読に直接関与していない人と議論しない。
- ・ 原稿のデータや情報を自らの研究や出版物に利用しない。
- ・ 自分自身や他の人の利益のため、あるいは個人や組織に不利益を与えるために、査読の過程で得られた情報を利用しない。
- ・ 第三者を査読に参加させない。

（７）エラーと撤回

本誌は、出版された論文の公正性を維持することの重要性を認識している。

掲載された論文に誤りがあった場合、速やかに次号以降の学会誌にエラーを掲載し、訂正する。エラーには、出版物の科学的な公正性、執筆者の評判、ジャーナル自体に重大な影響を与える誤りを記述する。掲載された論文の訂正を希望する執筆者は、原稿を担当した編集常任委員会に、誤りの詳細と変更後の内容を連絡する。執筆者間で訂正をめぐって意見が一致しない場合、編集常任委員会は外部の査読者に助言を求める場合がある。エラーが発行された場合、反対意見のある執筆者については本文にその旨が記載される。

掲載された論文が無効または信頼できない結果や結論を含んでいたり、他の場所で発表されていたり、行動規範（研究倫理または出版倫理）を侵害している場合、撤回を行う。論文の撤回を要求する個人は、懸念事項の詳細を編集常任委員会に連絡すること。編集常任委員会は調査を行い、当該論文の執筆者に連絡して回答を得る。執筆者の間で撤回をめぐって意見が一致しない場合、編集常任委員会は理事会等に助言を求める場合がある。論文が撤回された場合、反対意見のある執筆者については本文にその旨が記載される。

エラーまたは撤回についての決定は、編集常任委員会の裁量で行われる。

（８）ジャーナルの執筆者としての編集常任委員・専門委員

編集常任委員長を含む編集常任委員会のメンバー（編集常任委員・専門委員）が原稿を投稿した場合、自身は当該論文の査読プロセスから除外される。オンラインの原稿投稿・追跡システムでは、執筆者として原稿を見ることができ、編集常任委員・専門委員としては見ることができないため、査読の機密性は保たれる。

『保育学研究』の編集常任委員・専門委員が執筆した原稿は、他の原稿と同様のプロセスで査読と編集上の決定が行われる。

（９）倫理違反の可能性がある場合の対応

本誌は、倫理違反の申し立てがあった場合には、『保育学研究倫理ガイドブック 2023』の「抵触疑義の事態の申し立てに従って対応する。

（10）査読者の利益相反

利益相反は、査読者による原稿の公平な評価に影響を及ぼす可能性のある状況が顕在する、認識されている、潜在的する場合に生じる。具体的には、執筆者と個人的または職業上の関係（密接な師弟関係、緊密な共同研究者の関係等）がある、執筆者と同じテーマで研究をしている、研究やその出版物に金銭的な利害関係がある、等が含まれる。

編集常任委員は査読者を招聘する際に利益相反の回避に努めるが、潜在的なバイアスを必ずしも特定できるとは限らない。査読者は、利益相反がある場合は編集常任委員会へ申告する必要がある、編集常任委員会は申告に基づき最善の行動を決定する。

[↑先頭へ戻る](#)

6. 著作権，オープンアクセスと料金

『保育学研究』は完全オープンアクセスであり，クリエイティブ・コモンズ（CC）ライセンスを使用している。このライセンスは，利用者が本誌に掲載された論文を無償かつ出版者や執筆者の事前承諾を得ることなく使用，再利用を許可するものである。

（1）著作権とライセンシング

執筆者は，自身の論文の著作権を全て本学会に譲渡するために，著作権譲渡契約書

（CTACopyrightTransferAgreement）に署名する必要がある。本学会はクリエイティブ・コモンズ CC BY-SA 4.0（Attribution-ShareAlike 4.0 International）に基づいて論文を出版する。CC BY-SA は，適切なクレジットを表示し，派生作品を元記事と同じライセンスで流通させる限りにおいて，営利/非営利を問わず記事の共有，翻案等の利用を許可するものである。

助成機関によっては，助成を受けた論文を特定のクリエイティブ・コモンズ・ライセンスの下で公開することを要求していることがある。関連する助成機関への確認は，投稿する前に執筆者自身によって行われる必要があり，CC BY-SA 4.0 以外の CC ライセンスの下で公開する必要がある場合は，編集常任委員会へ申し出ること。

[↑先頭へ戻る](#)

7. 原稿の投稿[オンライン]

(1) 投稿方法

原稿は、本誌の電子投稿システム (EditorialManager :

<https://www.editorialmanager.com/reccej/>) から投稿すること。

論文原稿は、MicrosoftWord 形式でアップロードすること。なお、論文原稿以外の図表や関係資料等は他のファイル形式で提出することもできる。

投稿方法の詳細は、本学会ホームページの、電子投稿マニュアルを参照すること。

(ホーム>学会誌『保育学研究』>論文投稿について>電子投稿マニュアル)

オンライン投稿で問題が発生した場合は、投稿最終日の 23:59:59 までに、必ず事務局に連絡すること。(『保育学研究』お問い合わせ窓口 hoiku.journal@jsrecce.jp)

[↑先頭へ戻る](#)

8. 原稿，電子投稿システム入力内容および提出書類の準備

(1) 提出書類

・以下をそれぞれ別のファイルに保存し，アップロードする。

提出書類 (①③④提出必須書類)	ファイル名 (半角)
論文原稿 (Word ファイル) ① 図表，事例，写真，注，引用文献を含む 11 頁以内 ※謝辞・付記は含まない	honbun
図・表・写真等 ② ※図表タイトルは，データ内に記載，もしくはアップロード時に電子投稿システムの「説明」欄に入力	zuhyo_01 zuhyo_02
③ 投稿前確認事項	kakunin
執筆者全員分の年会費の領収書 ④ ※会員マイページからダウンロードした領収書の PDF にはセキュリティがかかっているため，スクリーンショット等をアップロード	nenkaihi_01 nenkaihi_02
⑤ 関係書類 (付記に記載のある論文等) ※大会名，学会誌名および開催時期や発刊時期等を記載	kankei_01 kankei_02
承諾書・同意書のフォーマット ※自身が実際に使用したものに，承諾を得た日時・人数を追記 ⑥ または，倫理審査委員会の書類 (審査結果の分かるもの) 上記が提出できない場合は理由書	syoudakusyo douisyo rinri riyu

(2) 原稿作成および電子投稿システム入力時の注意事項

	項目	詳細
論文本文 (Word にて作成し，アップロード)	用紙サイズ	A4
	フォント	MS 明朝
	フォントサイズ	10.5 (図表類，事例等は 6pt 以上)
	アルファベット， 数字等	半角
	レイアウト	2 段組み
		各段: 23 字×42 行
	ページ数	11 ページ以内 (小見出し，写真，図表，注，引用文献含む。参考文献は記載しない。)
	ページ番号	下部に記載
	文末表現	「である」調
	図表類，事例， 写真の大きさ	タイトル等を含め，フォーマットのレイアウト内に収まるように作成

	図表類, 事例, 写真のカラー	白黒で作成
	注	文中 ^{注1)} ^{注2)} というように記号をつける
		引用文献の前に, 注という項目を作成し, (注 1)…, (注 2)…と記載
	引用文献	文中 ¹⁾ ²⁾ というように記号をつける
		論文の末尾, 注の次に引用文献として (1)…, (2)…と記載し, 「引用文献表記」(本学会ホームページ参照)に従って明記 (ホーム>学会誌『保育学研究』>論文投稿について>引用文献 表記 https://jsrecce.jp/?page_id=6392)
	匿名性	公平な論文審査を行うにあたり, ダブル・ブラインド方式をとっているため, 投稿論文には執筆者の匿名性が担保できない情報は記載しない
電子投稿システム 直接入力 (論文本文には 記載しない)	標題	和文および英文でつける
		副題がある場合は, 副題の前後をダッシュ(—)ではさむ
	抄録	抄録(アブストラクト)は目的, 方法, 結果, 考察を含めて本文の内容を理解できるように簡潔に記載
		和文抄録: 300 字以内
		英文抄録: 180 語以内(必ず英語の熟達者による校閲を受けること)
	キーワード	日本語英語共に 5 つ以内
	専門分野	筆頭執筆者の専門分野
	謝辞	電子投稿システムに入力
	付記	電子投稿システムに入力
		各機関の研究助成を受けた場合: 「本研究は, ○○の助成を受けて行った。」等記載
		既発表の研究を新たにまとめ直した場合に該当する場合: 「本論文はその一部を○○大会にて発表している。」「本論文は○○大会において発表したものを加筆, 修正したものである。」「本論文は○○大学に提出した修士論文を加筆, 修正したものである。」等記載
		投稿論文の一部あるいはそれをもとに, 日本保育学会大会, 他の学会大会, 学会誌, 専門誌, 研究誌等において発表を予定しており, 『保育学研究』に掲載される前までに発表が終了している場合: 「本論文はその一部を○○大会にて発表を予定している。」「本論文は一部, ○○大学に博士論文として提出予定である。」等記載

		<p>発表済の論文等と同一データを用いた場合：「本研究のうち、○○のデータは○○と同一のものであるが、先行研究と本研究とは研究の目的やデータ解析の内容は異なるものである。」等記載</p>
		<p>利益相反に関する開示すべき情報がある場合：「本研究は、執筆者が所属する○○（企業名）の研究費で実施された。」「第○執筆者は、○○（企業名）より報酬を受理している。」「第○執筆者は、本所属のほかに○○（企業名）と雇用関係を有する。」等記載</p>

[↑先頭へ戻る](#)

9. 採択された原稿

採択された原稿は、出版前に英文校閲および校正が実施される。

採択された原稿に関する全ての連絡は、筆頭執筆者との間で行われる。

(1) 英文校閲

英文校閲委員による校閲を行う。ただし、最終的な責任は執筆者本人によるものとする。

(2) 校正

校正は執筆者本人の責任とし、再校正までとする。

論文の変更は認められない（標題も含む）。

校正の段階では、組版のミスや誤字・脱字に対する修正のみが認められる。

ただし、編集常任委員会により、標題等を若干変更することがある。その場合は筆頭執筆者に連絡をして、了承を得る。

筆頭執筆者は、送られたページ校正の結果を期日内にチェックして返送する。

(3) 費用の執筆者負担

掲載された論文の抜刷が必要な場合は、実費負担となる。希望者は、別途注文することができる。

図表等の再作成代等の経費は執筆者負担とすることがある。

[↑先頭へ戻る](#)

10. 問い合わせ先

一般社団法人 日本保育学会事務局『保育学研究』お問い合わせ窓口

Email : hoiku.journal@jsrecce.jp

投稿論文に関する最新の情報は、本学会ホームページ（ <https://jsrecce.jp/> ）を確認のこと。

最終更新日:2025 年 12 月 22 日

[↑先頭へ戻る](#)